

(41) みつば

ア 各病害虫の防除

菌核病

立枯病(リゾクトニア菌)

灰色かび病

根腐病(ピシウム菌)

てんぐ巢病

べと病

キタネグサレセンチュウ

ハスモンヨトウ

ヨトウムシ

アブラムシ類

ハダニ類

ア 各病害虫の防除

【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

菌核病

(耕種的・物理的防除)

- 1 施設内の換気を良くし、湿度をできるだけ下げる。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 播種前に種子を薬剤に粉衣または浸漬する。
- 2 軟化栽培では、薬剤を伏込み時に土壌かん注する。又は根株養成期の地上部切り取り前に散布する。

立枯病(リゾクトニア菌)

(耕種的・物理的防除)

- 1 水耕栽培では、パネルを蒸気又は温湯で消毒する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 播種前に薬剤を全面土壌混和する。
- 2 薬剤を株元にかん注する。
- 3 水耕栽培では、薬剤を散布する。

灰色かび病

(耕種的・物理的防除)

- 1 施設内の換気を良くし、湿度をできるだけ下げる。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 微生物殺菌剤を予防的に処理する。
- 2 発病初期から薬剤を散布する。

根腐病(ピシウム菌)

(耕種的・物理的防除)

- 1 水耕栽培では、パネルを蒸気又は温湯で消毒する。
※水耕栽培で多発しやすい。
- 2 水耕栽培では、ECを高めに管理する。

てんぐ巣病

(判断、防除に関する措置)

- 1 病原菌はファイトプラズマで、これを保毒したヒメフタテンヨコバイによって媒介される。
- 2 発病株は7月中旬頃から多くなる。
- 3 レタス、しゅんぎく、ねぎ、ほうれんそう、セリ、エゾギク、ニチニチソウなどにも発生する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 春播きでは厚播きにする。

べと病

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生初期から薬剤を散布する。

キタネグサレセンチュウ

(薬剤防除) [農薬登録情報](#) [【センチュウ類】](#)・[【ネグサレセンチュウ】](#)

・[共通防除の章の資材](#)・[苗床](#)・[本ぼの消毒の項](#)を参照する。

ハスモンヨトウ

(予防に関する措置)

- 1 防虫ネット等の使用により、成虫の飛来及び産卵を防ぐ。
- 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 3 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。
- 4 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 4 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報【ハスモンヨトウ】](#)

- 1 交信かく乱剤を活用する。
- 2 生物農薬を散布する。
- 3 発生初期に薬剤を散布する。

ヨトウムシ

(予防に関する措置)

- 1 防虫ネット等の使用により、成虫の飛来及び産卵を防ぐ。
- 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 3 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫 ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。
- 4 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 3 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報【ヨトウムシ】・【ヨトウガ】](#)

- 1 交信かく乱剤を活用する。
- 2 生物農薬を散布する
- 3 発生初期に薬剤を散布する。

アブラムシ類

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を散布する。
- ※ 伏込み栽培の場合、いずれの薬剤も伏込み前までに散布する。

ハダニ類

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生初期に薬剤を散布する。